

## 研究主題 「主体的に聞く力を高める指導の工夫

### —目的に応じて必要な情報を聞き取る活動を通して—

東京都教職員研修センター研修部経営研修課  
足立区立皿沼小学校 教諭 柿沼 広美

#### I 研究のねらい

主体的に聞くことは、児童が自分にとって必要なことを学び取り、自分の考えを深め、話したり聞いたりする言語活動を行う基盤である。また、児童・生徒同士で主体的に聞き合うことは、相手を知り自分を知ることであり、相手を理解・尊重するとともに、自分の考えの変容と話し方や聞き方の向上を客観的に理解することになると考えた。

そこで、本研究では、話すこと・聞くことの指導において、目的に応じて必要な情報を聞き取る活動に焦点を当てた、単元構成や学習活動などを工夫した指導を行い、主体的に聞く力を高めることをねらいとする。

#### II 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

主体的に聞く力の定義	「目的意識をもって話を聞き、自分に必要な内容や表現を聞き取り、聞き取ったことを基に考えをまとめる力」
------------	--

主体的に聞く力の3つの構成要素

よい聞き方	相手の話を聞いて受け入れようとする気持ちや態度
正しく聞く力	話の内容を正確に聞き取り理解する力
聞いて考える力	話された内容を基に、自分の感想や意見をはっきりさせてまとめる力

「聞いて考える力」には、それを表現するために内容を選んだり要約したりする力を含めることにした。主体的に聞く力を高めるために「よい聞き方」「正しく聞く力」「聞いて考える力」のそれぞれを指導する手だてを工夫することが必要であると考えた。

##### 2 調査研究

所属校第5学年児童86名を対象に聞くことに関する意識調査・実態調査を実施した。

意識調査の結果、2つのことが分かった。1つは、日常生活の中では、話を最後まで聞いているものの、聞いてメモすることは少ないこと、もう1つは、話を聞く時に相手の言葉遣いや話の組み立て方等の工夫をあまり意識していないことである。

また、実態調査では、メモの取り方に課題があることが分かった。箇条書きにすることや、内容のまとまりごとに分けることなどが十分には身に付いていないことである。

話の内容を正しく聞き取り、話のまとまりをつかむための、聞き取りメモの指導と、言葉や話し方、話の構成など表現上の工夫を聞き取らせる指導が必要であると考えた。

##### 3 実践研究

###### (1) 国語科における聞くことの指導の位置付け

学習指導要領では、話すこと・聞くことの指導は、日常生活の中に話題を求め、意図的、計画的に指導し、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当することとしている。

教科書では、話すこと・聞くことに関する教材は主にスピーチ系列、ディスカッション系列、説明文と組み合わせた発表系列に分かれ、各学年にそれぞれ1～2単元ずつ配列されている。聞くことの指導は、音声言語活動において話すことの指導と関連させて行うようになっている。

「主体的に聞く力を高める指導の工夫—目的に応じて必要な情報を聞き取る活動を通して—」

## (2) 指導計画の基本的な考え方

発表系列の教科書教材の単元構成を生かす。発表会での発表を目的として位置付け、そのために必要な情報を聞き取るという流れで指導計画を作成する。第1教材の説明文の内容と構成、第2教材の発表方法を参考に、単元の最後に発表会をする。

第1教材の説明文では、メモの取り方指導を通して、要点の聞き取りと要約を学習する。

第2教材の発表方法では、発表の聞き方の指導を通して、話し手の意図の把握、自分の考えの明確化を学習する。

## (3) 検証授業

- ① 単元名 課題を見つけて伝え合おう
- ② 単元の目標 聞き取ったことを基に、よりよい発表をしよう。
- ③ 「主体的に聞く力」の指導事項

「よい聞き方」	○目的意識を高めながら聞く。 ・自分の発表に生かすという視点で、目的を焦点化して聞く。
「正しく聞く力」	○事実と意見を区別しながら聞く。 ・話のまとまりごとに要点を聞き取り、事実と意見を分けて要約する。 ○意見の根拠や理由を確かめる ・自分が聞き取った内容を話し手本人に返して確かめる。 ○適切で効果的な話の組み立て方に注意しながら聞く。 ・話し手が工夫している話の順序や構成を聞き取る。 ○話し手の言葉遣いや話し方に着目して聞く。 ・話し手が工夫している言葉遣いや話し方を聞き取る。
「聞いて考える力」	○自分の考え等を、メモに書き添える。 ・話し手の意見に対し、自分の体験や知識を基に、自分の考えをはっきりさせる。 ○自他の考えを比べて、考えを深めたり広げたりする。 ・自分の考えと照らし合わせながら相手の考えを聞き、自分の考えを豊かにする。

## ④ 指導計画（全12時間）

小単元	時	主な学習活動	主体的に聞く活動
第1次 説明文 『日本語を 考える』の 内容と組み 立てを理 解しよう	1	学習の見通しをもつ 『日本語を考える』の範読を聞く。	・初めて聞く言葉、意味の分からない言葉を聞き、メモを取る。
	2	教材文の内容を理解する	・大事な言葉を聞き取り、メモを取る。
	3	『日本語を考える』を聞いたり読んだりして要約する。	・メモを基に聞き取ったことを事実と意見に分けて要約文にまとめる。
	4	教材文の組み立てを理解する 筆者の考えに対して自分の考えをもつ。	・互いの考えを聞き合い、違いや共通点を確かめる。
課外		情報収集する 調べたことをカードに書きため、伝え合う。	・身の回りで聞いた言葉と自分の意見をカードに書き、友達から意見をもらう。
第2次 『日本語 について 調べよう』 を参考に 発表し 合おう	5	発表会までの学習の見通しをもつ 発表テーマをグループで話し合う。	・ほかのグループの発表テーマとその理由を聞いて参考にする。
	6	発表内容を決める	・発表モデルの発表内容や発表資料を自分たちの発表の参考にする。 ・発表ビデオ等の中から発表の工夫を見付け、自分たちのテーマに合った効果的な発表方法を取り入れる。
	7	発表モデルを聞き、発表を考える。 発表内容と発表方法をグループで話し合う。	
	8	発表の準備をする	・ほかのグループの発表を聞いて参考にするとともに、参考にした点を発表者に伝える。
	9	発表メモや発表資料を作る。	
	10	発表練習会をする 発表練習を聞き合い、表現についてよいところやさらによくするところを話し合う。	
11	発表会をする	・ほかのグループの発表から、発表者の考えや意図を聞き取り、自分の考えをもつ。	
12	発表し合い、内容について意見を伝え合う。		

## Ⅲ 研究の結果と考察

### 1 具体的な指導の手だてと成果

検証授業での指導の具体的な手だてと成果は以下の通りである。

### (1) 「よい聞き方」

ねらい	具体的な手だて	成果（児童の様子）
聞く必要性の自覚	教師による発表のモデルを示す。 前年度の5年生の発表会ビデオや発表資料を、サンプルとして用意する。	学習の最終的な姿をイメージし、見直しをもって学習に取り組んでいた。発表内容や発表方法（役割演技や質問の挿入等）の工夫を参考にしていた。
目的の焦点化	発表を聞いて、自分の発表に生かした点を振り返らせ、次の学習のめあてを決めて自己評価させる。	自己評価を繰り返す中で、次はこんな点に気を付けたい等のめあての変容が見られた。発表会の振り返りでは、多くの児童が自己の向上を自覚していた。

#### めあての変容が見られた児童Aの記述と個別支援

第9時の感想	「僕は、みんなの前で発表するのが嫌いで、早く終わらせたいとってしまうことがあります。だからそこに気を付けたいです。発表練習のめあては、ゆっくり言う、なるべくメモを見ない、です。」	
聞くめあてを絞る支援	「発表は、だれでも緊張するものです。話し始めに間を取ると、ゆっくり聞こえて、分かりやすいですよ。上手だなと思う人の発表をよく聞いて、まねをしましょう。」	
他の発表を聞いた感想	「言っている言葉に合わせてその表情になりきっている。それに、笑顔で言っている。声が大きいと聞き取りやすい。自分ももう少し大きい声で言えばよかった。」	
発表練習をした感想	「みんなの前に立つとこんなに恥ずかしくなるなんて。次から恥ずかしがらずに言うようにします。本番に向けて直すところは、声を大きくはっきり言う、恥ずかしがらない、下を向かない、の3つです。」	
聞き手を意識させる支援	「他のグループの発表を聞いて、いろいろな工夫を見つけましたね。発表する時も、内容がきちんと伝わるように、聞いている人の様子を見ながら話しましょう。」	
まとめの感想	「僕は、大勢の前で発表するのが苦手だったけど、恥ずかしがる気持ちが少しなくなりました。それは、みんなが自分たちの発表を一生懸命聞いてくれたからです。他のグループは、僕が考えもしなかったテーマで、どれもすばらしかったです。くわしく説明していて、発表の仕方なども勉強になりました。」	
聞く学習を広げる支援	「これからは、話を聞く時に、自分が話す時の参考にするつもりで聞くといいですね。」	

### (2) 「正しく聞く力」

ねらい	具体的な手だて	成果（児童の様子）
実態に応じた指導	説明文の聞き取りでの指導事項をまとめたメモや要約の手引きと、話の組み立てが分かりやすいワークシートを作成する。	学習方法が分かり、一つ一つの活動に集中して取り組んでいた。大事な言葉の聞き取り、メモ、要約などの力が高まった。
聞き取りの振り返り	発表モデルを聞いて発表内容をメモに取り、その後、発表メモと自分の聞き取りメモの比較をさせる。	説明文の聞き取りを生かして、事実と意見を分けてまとめていた。さらに、メモの比較により、発表者の意図や、自分が聞き取れたことと聞き取れなかったことを確かめていた。
必要な情報の焦点化	発表練習会では、互いの発表メモを複写、配布して、メモと実際の発表を照らし合わせながら発表を聞き、話し合う場を設定する。	メモで発表内容をあらかじめ把握しておくことで聞くめあてが焦点化し、表現の工夫や発表方法の工夫を中心に聞き取ることができた。

### (3) 「聞いて考える力」

ねらい	具体的な手だて	成果（児童の様子）
興味関心の喚起	注意深く聞くことによる気付きや疑問（日常生活やテレビの会話や言葉について、変だな、なぜだろうと思うこと）から、課題を発見させる。	課題意識をもって、事例の収集（調べ学習）や資料作成（発表準備）に意欲的に取り組んでいた。身近な言葉を改めて見直すことで、日本語のよさやおもしろさを実感していた。
考えの明確化	筆者の考えに対する自分の考えをメモに書かせる前に、自分の意見や立場を選択させ、その根拠となる体験や知識を想起させる。	筆者の考えを受け入れるだけでなく、それに対する感想や気付きを基に、自分の生活を振り返ったり、調べたりして、自分の考えを記述していた。
集団学習の充実	発表グループを人間関係づくりに配慮して少人数（3～4人）編成にする。  グループの話し合いに、一人一人が異なる意見（他の人がもっていない発言内容）をもって臨むように、個別支援する。	それまでかかわりの少なかった児童同士が、友達からの助言による気付きや自覚を通して、学習の中で進んでかかわり合うようになった。 発表テーマや発表内容を決める話し合いで、相手（発言者）を尊重する態度、グループ内での役割の自覚や協力的な態度が見られるようになった。
考えの交流	発表会で、発表を聞いた後にメモを基に考える時間と、感想や意見を伝え、内容について確かめ合う時間を設定する。	発表後の交流で、聞き取りメモや相手からの反応を基に自分の考えを率直に出し合い、自分の聞き方や発表の仕方を振り返って評価していた。

「主体的に聞く力を高める指導の工夫—目的に応じて必要な情報を聞き取る活動を通して—」

## 2 結果の考察

発表の聞き方について、聞き取りメモを第6時と第12時で比較した。メモに「発表者の考えを記述」していた児童が、16名から25名に、「自分の考えを記述」していた児童が、14名から17名に、それぞれ増加した。メモや要約の指導により、「正しく聞く力」が向上したと考えられる。

発表の仕方について、発表の様子を第10時と第12時で比較した。既習の話し方の工夫は、言い出しの言葉と語りかける言い方である。(まず、次に、では、このように、～してください。～だと思いませんか。～でしょうか。みなさん、など) これらを用いて「話し方を工夫」していた児童が、15名から21名に増加した。(表1)

単元を通して、聞き取ったことを基に、よりよい発表をしようという目標で学習してきた。

第12時のまとめの自己評価の中で、学習を振り返り、「発表会は、発表練習の時よりよい発表になったか」の項目で「とてもよくなった」「よくなった」とした児童が、28人中27人であった。到達状況と併せて、発表会でのよりよい発表につながったのは、単元全体の指導を通して

「よい聞き方」が身に付き、聞いたことを生かした結果であると考えられる。(グラフ1)

## 3 研究のまとめ

主体的に聞く力を高めるためには以下のことが有効と考える。

- (1) 「よい聞き方」を高めるために、目的意識をもたせる。
  - ・聞く必要があると感じさせる課題を設定し、聞く目的を焦点化させる。
  - ・話を聞く際の自分のめあてに対し、聞いて気付いたことや分かったことを振り返らせる。
- (2) 「正しく聞く力」を高めるために、必要な内容や表現を確実に聞き取らせる。
  - ・実態把握に基づいて、手引きを作成し、聞き取り・要約メモの形式を工夫する。
  - ・聞き取りメモを書いた後、相手の発表メモと比較して、自分の聞き取りを確かめさせる。
- (3) 「聞いて考える力」を高めるために、自分の考えを明確にして言葉で表現させる。
  - ・題材に対する理解を深めさせる資料を示し、さらに聞きたい、知りたいと感じさせる。
  - ・自他の考えを比較する観点を示し、自分の考えに対する気付きを促す。
  - ・自分の考えを表出する聞き合い、話し合いの場を設定し、互いの考えを交流させる。

## IV 今後の課題

聞き取った情報を基に、話したり書いたりして伝えることの指導が難しかった。主体的に聞く力の中でも、自分の考えをまとめ、表現するための「聞いて考える力」を高める具体的な手だてと、発表以外のスピーチやディスカッションにおける指導の工夫が、今後の課題である。

表1 到達状況の比較 (調査対象28人)

観点	評価方法・項目	時・到達人数	
		第6時	第12時
発表の聞き方	聞き取りメモ		
	発表者の考えを記述	16人	25人
	自分の考えを記述	14人	17人
発表の仕方	発表の観察	第10時	第12時
	話し方(言い出しの言葉・語りかけ)を工夫	15人	21人

グラフ1 まとめ自己評価 (調査対象28人)

